

教職員・幼児児童生徒・保護者を応援します！

# サポート

No. 203

令和6年11月11日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

## 第23回秋田県特別支援学校総合体育大会 ～もやせハート！ あつまれパワー！～

第23回秋田県特別支援学校総合体育大会が、9月13日（金）に秋田市の県立中央公園スポーツゾーン、県立体育館、あきた総合支援エリアで開催されました。

県内の特別支援学校15校、中学校6校から参加した総勢1065名の選手が、日頃の練習の成果を発揮し、熱い戦いが繰り広げられました。団体競技の結果を報告します。

|          |                  |                  |                                      |
|----------|------------------|------------------|--------------------------------------|
| バスケットボール | 男子               | 1位 栗田支援学校        | 2位 能代支援学校                            |
|          | 女子               | 1位 ゆり支援学校        | 2位 附属特別支援学校                          |
| ネオホッケー   | 1位 比内支援学校たかのす校   |                  | 2位 比内支援学校かづの校                        |
| グラウンドゴルフ | 小・中の部            | 1位 大曲支援学校        | 2位 由利本荘合同A                           |
|          | 高の部              | 1位 ゆり支援学校        | 2位 稲川支援学校<br>大曲支援学校せんぼく校             |
| ピン倒しボール  | 小の部1位<br>栗田支援学校A | 中の部1位<br>能代支援学校A | 高の部1位<br>天王みどり学園A<br>HOME<br>横手支援学校F |
| サッカー     | 1位 栗田支援学校        |                  | 2位 ゆり支援学校                            |
| ボッチャ     | OP小・中            | 1位 ゆり支援学校A       | 2位 横手支援学校B                           |
|          | OP高              | 1位 栗田支援学校B       | 2位 ゆり支援学校B                           |

### 大会の様子

ピン倒しボール



フライングディスク



ネオホッケー



バスケットボール



グラウンドゴルフ

## インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

令和4年度から、小・中学校等における特別支援教育に係る研修を「通常の学級」、「通級による指導」、「特別支援学級」の学びの場ごとに設定し、ニーズに対応した研修を実施しています。

「通常の学級実践研修」は、通常の学級の担任による提示授業に基づく協議を実施することにより、通常学級の担任の実践的指導力の向上を図る研修です。

### やる気と安心につながる教室環境と授業づくり ～大館市立上川沿小学校～

今年度も通常の学級実践研修において多くの小・中学校へ訪問させていただきました。どの学校においても、全ての児童生徒にとって分かりやすく楽しい授業づくりに取り組まれていました。

すばらしい実践の中から今回は「大館市立上川沿小学校」を紹介します。ユニバーサルデザインの視点による全ての児童の参加と理解を促進する指導の工夫や児童一人一人の困難さに応じた個別の配慮などが大変充実していました。

#### ①安心につながる教室環境づくり

教室に入り、始めに驚いたことは教室環境が整っていたことです。ランドセルや水筒等の整理の仕方が学級のルールとして定着していました。教室内は、掲示物や教材等が整理されており、児童は落ち着いた気持ちで授業に参加することができると感じました。【写真1】



【写真1：整理された教室環境】

#### ②ICTの活用

参観したのは通常の学級1年生、算数科「どちらがながい」という単元の授業です。長さを比べる場面では、電子黒板に映した机や本棚などの身の回りのものの写真に、赤線で印を付けて比べる長さを示しました。視覚的に示すことで、児童は一目でもの長さに着目することができました。【写真2】



【写真2：ICTの活用】

#### ③特別支援教育支援員との連携

全ての児童が授業に参加・理解できるための指導の工夫が充実していました。その裏には学級担任と特別支援教育支援員による対象児童への支援内容等について、十分な打合わせがありました。書くことへの困難さがある児童には、板書内容を書いたシートを児童の手元に置く、集中の持続が難しい児童には、道具を渡す、みんなの役に立つ特別な役割を個別に設定しておくなど、事前の打合わせで支援に関して共通理解を図り、対象児童一人一人への個別の配慮を充実させていました。

担任や特別支援教育支援員が、優しく穏やかに児童と関わっており、児童が「できた」「分かった」ときだけでなく、児童が活動に取り組んでいる過程でも機会を捉えてたくさんの褒め言葉を掛けることで、学級内には温かく、安心できる雰囲気が感じられました。

上川沿小学校の実践から、改めて児童生徒にとって、「安心して学ぶことができる教室環境」「分かりやすく楽しい授業づくり」が、児童生徒のやる気と安心につながっているのだと感じました。

(北教育事務所鹿角出張所 指導主事 長崎尚嗣)

# 令和6年度高等学校特別支援教育コーディネーター連絡協議会

高等学校の特別支援教育コーディネーターによる実践発表や協議などを通し、校種間・学校間及び関係機関との連携の推進を図ることを目的として、8月1日にオンラインで開催しました。「特別な支援を必要とする生徒の中学校からの引継ぎの成果と課題」をテーマに、3校から実践発表をしていただきましたので、各校の取組について紹介します。

## 能代科学技術高校

### ①引継ぎの実際について

- ・3月の地域生徒指導研究推進協議会で中学校に依頼し、支援に関わる情報を得ている。
- ・今年度から「調査表」を活用した取組を実施しており、保護者の協力を得て、行動や学習の傾向、身体障害者手帳等の有無、中学校における個別の教育支援計画等の有無などについて記入している。

### ②入学後の支援、指導体制について

- ・校内特別支援教育委員会は8名で構成し、基本的には月に一度開催している。
- ・5月には全職員で情報共有を行っている。1年生は中学校からの引継ぎのある生徒を中心に、2、3年生は前年までの生活を踏まえて、支援を行うための資料を作成している。
- ・9月には、全職員で2回目の情報共有と職員アンケートを実施している。
- ・2月に再度、職員アンケートを実施している。生徒の変化などを把握するとともに、次年度への引継ぎ資料としている。
- ・初めての考査や行事を終える6月頃に、能代支援学校の教育専門監に授業参観を依頼し、その後ケース会議を実施している。その他、随時、教育専門監や外部機関と連絡を取りながら対応している。

### ③成果と課題について

- ・中学校から個別の教育支援計画等が引き継がれない場合、生徒の実態を事前に把握できなかったが、4月に保護者から「調査表」に必要な情報を記入してもらうことで、早期の把握・対応が可能になった。
- ・特別な支援や指導を希望しない生徒や保護者への支援の在り方については検討が必要である。

## 秋田中央高校

### ①病弱生徒の状況について

- ・車椅子を使用している。文字を書いたりパソコンのキーボードを打ったりすることはできる。

### ②中学校との引継ぎについて

- ・入学前の3月末に、秋田きらり支援学校中学部の担任と中央高校の学年主任、担任がミーティングを行っている。生徒の実態はもとより、学校での様子や具体的な支援方法なども把握できた。
- ・引継ぎにより、事前に支援の内容や教員が気を付けることが分かり、入学後の対応がスムーズになった。

### ③今後の対応について

- ・災害等における避難や考査時のトイレ使用など、日常生活の困りごとについて、特別支援委員会のケース会議で検討し、共有する。引き続き、担任、委員会等を含めた組織としての対応を心掛ける。

## 湯沢翔北高校雄勝校

### ①雄勝校について

- ・学習面、コミュニケーション等でのサポートを必要とする生徒が増加傾向にある。

### ②中学校からの情報提供について

- ・合格発表後（3月）、地域生徒指導研究推進協議会主催の情報交換会で、支援が必要な生徒（調整評定値の記載がない生徒、欠席日数が多い生徒等）について引継ぎを行っている。
- ・個別の指導計画の提供については、指導要録と同時に提出を依頼し、入学前に完了している。中学校側も入学後の生徒の生活を心配していることから、スムーズな引継ぎが行われている。

### ③入学後の情報交換会について

- ・5月後半から6月中旬に実施している。授業参観（1時間）、生徒と中学校の先生との交流（休み時間）、中学校の先生と1年部職員の情報交換（1時間）を行っている。
- ・中学校の先生方からは「生徒の様子を見て安心した」「不登校だった生徒が元気そうでよかった」等の声があった。

（高校教育課指導チーム 指導主事 物部長幸）

# あきた総文2026 特別支援学校部門 準備スタート

第50回全国高等学校総合文化祭秋田大会（あきた総文2026）が、令和8年7月26日（日）～8月1日（土）に行われます。本県での開催は昭和56年以来、2回目となります。秋田県内各地で演劇、吹奏楽、美術・工芸、新聞、放送などの規定19部門の高等学校の芸術文化活動の発表があります。それに加え、開催県独自に設定する協賛3部門の一つに「特別支援学校部門」が設定され、秋田市で開催することになりました。

特別支援学校部門は、秋田市文化創造館で行われます。令和8年の本大会に向けて、今年度は500日前イベント、来年度はプレ大会が開催される予定です。それらの企画・運営のために特別支援学校部門別部会と生徒部門別部会が立ち上がりました。令和6年10月10日に第1回部門別部会と生徒部門別部会が同時開催され、生徒部会に参加する6名の委員（視覚支援・聴覚支援・秋田きらり支援・栗田支援・天王みどり学園・ゆり支援の代表）に委嘱状が渡されました。



特別支援学校部門部会長より、委員に委嘱状が渡されました。



文化創造館視察の様子

また、会場となる秋田市文化創造館内を視察し、特別支援学校部門として、演奏・演劇等各校の特色ある取組を発表する「ステージ発表」、わくわく美術展やみんなの写真展の入賞作品を展示する「作品展示」、作業学習製品販売やカフェ、作業実演を行う「物販等」を行うことを確認しました。この後、特文連や各校の高等部を中心に協力を取りながら企画を立てていく予定です。あきた総文2026に向け、特別支援学校部門を盛り上げていきましょう。



あきたぼ

大会マスコット  
キャラクター

500日前イベント：令和6年3月15日（土） 秋田拠点センターALVE  
プレ大会：令和7年8月1日（金）～8月2日（土） 秋田市文化創造館

（あきた総文2026 特別支援学校部門代表委員：県立聴覚支援学校 教諭 伊藤 直美）

## 第22回秋田県特別支援学校文化祭



- ◇ わくわく美術展：12月6日（金）～9日（月）
- ◇ みんなの写真展：12月6日（金）～9日（月）
- ◇ わくわく Show time：12月11日（水）オンライン配信

おめでとうございます

令和6年度秋田県学校関係緑化コンクール

○学校林等活動の部  
知事賞 能代支援学校

○学校環境緑化の部  
知事賞 比内支援学校 大曲支援学校  
県教育委員会教育長賞 天王みどり学園  
県森林組合連合会会長賞  
比内支援学校たかのす校